



共同研究講座のプレートを掲げる菅沼部長(右)と佐藤学長

テーマは野菜と健康

弘大とカゴメ 共同講座を設置

弘前大学大学院医学研究科と食品メーカーのカゴメ(本社名古屋市)は9日、弘大で共同研究講座「野菜生命科学講座」の設置開式を行った。講座設置は1日付。弘大が弘前市若木地区の住民を対象に行っている大規模健康調査のデータを活用し、認知症やメタボリック症候群の予防・改善

弘大は2005年度から「岩木健康増進プロジェクト」と銘打ち毎年、健康調査を実施。カゴメは15年から参画している。企業が同プロジェクトに関する寄付講座や共同研究講座を設置するのはライオン、花王、協和発酵バイオ、生命科学インスティテュート、サントリ、大塚製薬に続き7例目。(太田佳希)

における野菜摂取の効果などを研究する。設置期間は3年。野菜を食べることが健康につながる」とされる詳細なメカニズムを解明し、個人の野菜

摂取量を簡便に見積もる仕組みを開発する。同研究科分子生体防御学講座の伊東健教授を研究代表者とし、カゴメの研究者が特任助手

として加わる。

開設式に出席した同社イノベーション本部自然健康研究部の菅沼大行部長は「野菜がどうして体にいいのか科学的に探り、どうやったら野菜を食べてもらえるのか研究する。日本人の野菜不足をゼロにする取り組みになると思う」と期待を述べた。佐藤学長は「講座を通じ、野菜摂取が体にいいという明確なエビデンス(科学的根拠)を社会に提起したい」と語った。